

いちのみやの芸術文化

- 特集「鵜飼吉左衛門と井伊直弼」
- 加入団体の紹介
- 第70回一宮市美術展入賞者
- これからの催し
- 文化講演会（報告）



2012.12

第23号

一宮市芸術文化協会

鵜飼知信(吉左衛門)像
(一宮市尾西歴史民俗資料館蔵)

ICHINOMIYA Arts and Culture Association

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

鵜飼吉左衛門と井伊直弼

安政の大獄に散った一宮出身の水戸藩士

▼鵜飼吉左衛門

鵜飼吉左衛門は幕末の水戸藩士で京都留守居役を務め、井伊直弼の安政の大獄で処刑された人物で知られています。吉左衛門は水戸藩士ですが、生まれは尾張国中島郡小信中島村（現一宮市）です。



▶鵜飼吉左衛門の生家
(一宮市尾西歴史民俗資料館蔵)

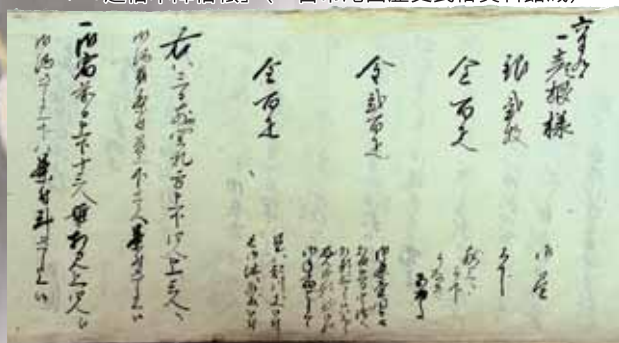
吉左衛門は寛政10年（1798）に小信中島で生まれ、12歳の時、伯父で京都の水戸藩屋敷に仕えていた知益の養子となりました。農民であっても、武家奉公から

身を立て、武士となる者は少なくありませんでした。吉左衛門は京都に生活の場を移しても、故郷へ送金していたこともわかっています。藩主徳川斉昭の信頼は厚く、嘉永6年（1853）、京都留守居役を拝命しました。この年、アメリカのペリー艦隊が浦賀に來航し、開国を要求し、激動の幕末時代の幕を開けました。おそらく、この時代でなければ、吉左衛門は一人の水戸藩士として生涯を終えたと思われる。



▲『勤皇志士 鵜飼吉左衛門父子の碑』
(一宮市小信中島字郷南)

▼『起宿本陣宿帳』（一宮市尾西歴史民俗資料館蔵）



なく、名譽職の意味合いが強いものでした。起宿に残る資料から、参勤交代のため、何度か美濃路を通行する井伊直弼一行の様子を見ることができま

▼彦根藩主井伊直弼

幕末の大老で知られる井伊直弼は嘉永3年（1850）に十五代の彦根藩主に就任しました。彦根藩は徳川譜代大名の筆頭です。歴代藩主の多くは幕府職制の最高位である大老に任じられましたが、平和な江戸時代にあつて、大老とは常置された職では

▼開国が攘夷か 井伊直弼の登場

ペリーの開国要求に対し、諸大名の意見は開国派と攘夷（外国を打ち払う）派に分かれました。井伊直弼は外国との戦争を避

けるため、開国路線を支持しました。一方、攘夷派を代表する人物が徳川斉昭でした。朝廷側の公家の多くは攘夷路線を支持し、水戸藩に期待を寄せました。朝廷と幕府、諸藩が緊張関係になるにつれ、京都留守居役の鶴飼吉左衛門の立場も重要なものになってきました。

吉左衛門の京都での動きははっきりと分つていませんが、斉昭の期待に答えるため、朝廷の公家たちと水戸藩の間に立って奔走する毎日だったと考えられます。また、同時期に発生したのが、十三代將軍家定の後継をめぐる將軍継嗣問題でした。親藩や外様大名は一橋家の慶喜を、直弼等の譜代大名は血統を重視し、家定の甥である紀州藩の慶福（家茂）を十四代將軍に推していました。この複雑に絡み合った問題を幕府政治を担う老中等は收拾することができませんでした。

このような中で井伊直弼が大老として登場します。もはや天下泰平の時代ではありませんでした。この事態に際し、大老として、この混乱する時勢を解決しなくてはならない立場にありました。直弼は幕府政治の建て直しを図りました。



▲近世英勇鏡 鶴飼知信(吉左衛門)
(一宮市尾西歴史民俗資料館蔵)

※「知信」は諱。「吉左衛門」は字。
諱…本名 字…普段、呼ぶときに使う名。

▼近世義勇伝 宇悔幸吉
(一宮市尾西歴史民俗資料館蔵)



▼安政の大獄 吉左衛門死罪

直弼は十四代將軍を慶福と決め、朝廷の許可を得る前に、日米修好通商条約を調印

しました。この事態に朝廷は所謂「戊午の密勅」を有力諸藩に出しました。密勅の内容は幕府専制を批判するものですが、幕府の存在を完全に否定するものではありませんでした。

しかし、徳川將軍家を一大名とみなし、さらに、朝廷から各藩へ直接、命令が行くことは幕府の面子を潰すことであり、直弼としては許すことはできませんでした。この事件を契機に安政の大獄が始まりました。この密勅降下を画策した人物の一人が吉左衛門であったとされます。さらに、吉左衛門は拳兵や幕府首脳陣の暗殺計画も立案していたとされます。安政六年（一八五九）吉左衛門は息子の幸吉と共に江戸で処刑されました。処罰は死刑8名を含め、大名や元大名、公家にも及びました。

翌年、安政七年（一八六〇）三月三日、桜田門外の変が発生します。水戸浪士等により井伊直弼は殺害され、幕府の権威は失墜し、倒幕運動が盛んになり、七年後の慶応三年に江戸幕府は滅亡しました。

（一宮市尾西歴史民俗資料館学芸員

宮川充史）

尾張もめん伝承会は、平成元年に一宮市博物館で開催された特別展「尾張のもめんーそのルーツを求めてー」の期間中に開講された繊維講座の受講生によって結成されました。

私達が住んでいる一宮は、江戸時代にこの地方で盛んに織られた縞木綿が「尾州の^{さんとめしま}棧留縞」として日本各地に売り出されていたことで、全国に織物の産地として知られるようになりました。私達は、「尾州の棧留縞」と呼ばれた江戸時代の織物の技術を伝承し、後世に伝えることを目的に活動しています。地元の学校や地域の行事などに出掛け、綿から糸を紡ぐことや、草木染めなどを、子供や地域のみなさんと楽しく行っています。

また、自分達でも綿を栽培し、糸を紡ぎ、身近な植物をつかって染め、手で反物を織っています。物であふれる現代に一から手作りにこだわり、手塩にかけた作品は、大切な宝物です。

年一回「手つむぎ・染め・織り展」を開催し、発表しています。今年も第23回展を玉堂記念木曾川図書館で9月に開催したばかりです。

活動は毎月第4日曜日の午後に、産業体育館で勉強会を行っています。今後も、伝え、作り、学ぶという活動を通じて社会とつながり、多くの人々に見ていただきたいと願っています。ぜひ一緒に尾州の縞木綿を学んでみませんか。どなたでも大歓迎です。



手つむぎ・染め・織り展

【問合せ先】熊澤 総子 ☎78-1530

琴生流大正琴藤明の会は、一宮方面の琴生流の団体として平成10年に設立されました。琴生流という流派は、大正琴を通じて音楽の楽しさを広く普及することを主旨として、昭和57年に家元・加藤昭代先生により設立されました。

現在、私たちは一宮スポーツ文化センターを中心に安藤明代先生の熱心な指導のもと、琴生流の主旨を大切に、楽しく学んでいます。主な発表の場としては、尾張地方の各団体合同での演奏会や介護施設への訪問演奏会などがあります。

また、昨年9月には愛知県芸術劇場大ホールにて盛大に行われた琴生流大正琴30周年記念全国大会や今年2月には名古屋国際会議場にて行われた大正琴四流派での大正琴誕生100年記念合同演奏会という大きなイベントにも参加し、大変有意義な経験をすることができました。

月2回、第1、3火曜日の練習では和気あい

あいの雰囲気の中、懐かしい童謡、唱歌、懐メロからアニメソング、最新の歌謡曲まで、様々なジャンルの曲目を楽しく練習しています。

大正琴は音階ボタンを押さえることにより、初心者にも確実に音高を出せる楽器として親しまれ、その音色は懐かしく、心が癒されます。是非、私達と一緒に奏でてみませんか。



介護施設での訪問演奏会

【問合せ先】木村 春美 ☎71-8800

芳美会は日本舞踊をこよなく愛する団体で、平成2年に発足しました。以来、会員皆で仲良く楽しく、日本舞踊に親しんでいます。

日本舞踊は、400年近い歴史を経て、現在では、歌舞伎を母体とするいわゆる歌舞伎舞踊、座敷舞の伝統を持つ上方舞や京舞、現代に馴染のある演歌や歌謡曲、民謡などに振付けして、新しい創造を目指す創作舞踊など様々な顔を持っています。芳美会ではその中でも歌舞伎舞踊や創作舞踊などを中心に稽古しています。

常に新しいものを求め、様変りをする現代において、忘れてはならないのは“和のこころ”ではないでしょうか。

日本の伝統文化である日本舞踊からは、礼儀作法や着付け、しなやかな身のこなしなど、多くのことを学ぶことができます。また、日々の姿勢や仕草が美しくなり、運動不足やストレスを解消す

ることもできます。

老人会や介護施設で毎年、踊りを披露しています。昨年は愛知県文連西尾張部芸能大会に参加させていただき、今年の7月には、一宮市民会館で開かれた演歌祭りで、歌手の“上杉かおり”さんの後ろでも踊らせていただきました。

ぜひ、皆さんも一緒に“和のこころ”を味わってみませんか。毎週月曜日と木曜日に向山公民館で練習をしています。



◀ 1月初舞にて

【問合せ先】 志済 美代子 ☎44-6804

尾西三味線熹世智会は、平成18年7月に結成され、現在は約15名の仲間で、毎月第2、第4木曜日に小信中島つどの里で丸一日しっかり三味線の練習をしています。

郷土民謡全国大会で素晴らしいご活躍をされ、名古屋の熹世智会の会主である浅野熹世智先生を講師に招き、マンツーマンでご指導をいただき稽古に励んでいます。全く三味線に触れたことのない仲間も、先生の丁寧な指導のもと、三味線の美しい音色を出すバチの打ち方を一から学び、今ではテンポの早い津軽の曲も弾いています。

毎年6月にはあま市の甚目寺で発表し、11月には一宮市尾西市民会館で開催される尾西芸能祭でも発表します。その他にも老人福祉施設での慰問など、多くのボランティア活動を行っています。

また、浅野熹世智先生の夫人で元歌手の浅野裕子先生には、第1、第3木曜日の午前中に民謡の

個人指導を行っていただき、最近では太鼓の指導の場も開かれています。民謡や太鼓をも学ぶことは、三味線の演奏により幅をもたらし、更なるレベルアップへつながり、より大きな達成感も味わうことができます。

日本伝統の和楽器である三味線を一緒に楽しく学んでみませんか。いつでも扉を開けて待っています。



◀ 平成23年度尾西芸能祭にて

【問合せ先】 五藤 芳子 ☎62-4460

第70回 一宮市美術展

11月15(木)日～18日(日)まで、一宮スポーツ文化センターで「第70回一宮市美術展」が開催されました。

市内を中心に近隣市町村や、県外からも多数作品が寄せられ、出品者は569名で、審査の結果、入賞となった186点をはじめ、569作品が展示されました。

期間中は、約5000人の方が会場を訪れ、作者の熱意・エネルギーを感じさせる多数の作品を熱心に鑑賞されていました。

各部門で入賞された方は、次のとおりです。なお、同一賞内での掲載順は順不同です。
(敬称略)

日本画

審査員 鈴木喜家

大島奈知子

市長賞

瀧 廣美

教育委員会賞

森 恵

第70回記念特別賞

三 矢菜穂子

美術展賞

鈴木信子 社本奈美

高田とみ子 舘 俊江

柴田美義

奨励賞

川瀬貢一 本多加代子

大鍬的治 山田勝利

青山トミエ 星野真由

藤塚 章

入選 48点

洋画

審査員

梅村孝之

長谷川 佑

後藤 泰洋

高山 清悟

三輪 欣哉

浅井 哉

市長賞

島津秀典 尾関秋隆

磯部和久

教育委員会賞

白井哲雄 内藤圭介

吉川京介 田中勢智代

第70回記念特別賞

鈴木綾子 浅野奈津子

美術展賞

速水基司

丹慶哲宏

近藤博通

山田 孝

香川 絹代

榎谷 咲子

成瀬 弘子

鈴木 光男

石黒 三雄

浅野 世津子

水野 潔

木村 忠嗣

藤井 忍

彫刻・立体

審査員

山本眞輔

市長賞

櫻井 真理

教育委員会賞

犬飼 知沙

第70回記念特別賞

松本 晃幸

美術展賞

伊藤 毅

奨励賞

松本 崇宏

入選 18点

工芸

審査員

山本眞輔

市長賞

櫻井 真理

教育委員会賞

犬飼 知沙

第70回記念特別賞

松本 晃幸

美術展賞

伊藤 毅

奨励賞

松本 崇宏

入選 170点

市長賞

小崎 千恵子



工芸部門解説

教育委員会賞

中西 正美

第70回記念特別賞

大島 忠敏

美術展賞

小崎 美智子

奨励賞

伊藤 英正

片岡 茂樹

入選 27点

デザイン



デザイン部門解説

審査員

源 安孝
岡崎 美穂

市長賞

内藤 啓善

教育委員会賞

奥野 紮

第70回記念特別賞

望月 周

美術展賞

石井 佳代子

高嶋 実花

奨励賞

木村 友美

百々 佳美

神戸 唯

吉田 奈緒子

山口 千晶

堀田 敬子

入選 38点

書



書部門解説

審査員

鬼頭 翔雲
高木 大宇
亀山 雪峰
木戸 竹葉
林 大樹
則武 穹
森 隆城
伊藤 玄圃

市長賞

西村 松花

五藤 梅艶

野田 智子

教育委員会賞

岩村 蹊月

尾中 杉得

平光 朱扇

鵜飼 梨英

牧 恵清

第70回記念特別賞

林 華泉

渡邊 水香

谷本 義仙

春日井 ゆかり

脇田 玉波

五藤 三禮

金丸 紫山

山田 順子

岩田 佳川

片桐 瑤雪

飯田 泰郷

村上 桂峻

長崎 成秀

安藤 峯象

森下 千代子

大竹 瑞光

永田 張羽

梅村 真琵

長尾 秀麗

内藤 春翠

足立 千枝美

安藤 静歩

山路 静竹

神田 鴻都

山口 崑華

浅井 妍翠

長屋 容子

倉橋 澄美

高取 翠揚

松岡 流麗

岩田 展穂

山田 紅照

佐藤 りさ

荒川 征世

大橋 溪煙

春日井 美来里

小島 華扇

高松 彩月

近藤 由果

小林 進

伊神 薪水

外村 幹秀

深谷 秋月

戸谷 嘉恵

井内 溪舟

内藤 佐紀子

安達 加寿子

井上 嘉蓮

林 華静

高取 春霞

尾関 明美

平松 豊泉

菱川 武

古川 白萩

竹内 深風

写真

齋場 ひさとし

光田 せいすけ

伊藤 繁雄

蜂須賀 秀紀

市長賞

林 都美子

教育委員会賞

安藤 正一

第70回記念特別賞

宮崎 久仁子

美術展賞

小幡 哲資

櫻井 悦子

林 孝弘

安藤 雅彦

岩田 重和

中村 薫

寺澤 英治

佐野 ルミ子

中村 妙子

奥村 俊雄

日比 憲宏

脇田 和彦

入選 186点

真

齋場 ひさとし

光田 せいすけ

伊藤 繁雄

蜂須賀 秀紀

市長賞

林 都美子

教育委員会賞

安藤 正一

第70回記念特別賞

宮崎 久仁子

美術展賞

小幡 哲資

櫻井 悦子

林 孝弘

安藤 雅彦

岩田 重和

中村 薫

寺澤 英治

佐野 ルミ子

中村 妙子

奥村 俊雄

日比 憲宏

脇田 和彦

入選 82点

真

齋場 ひさとし

光田 せいすけ

伊藤 繁雄

蜂須賀 秀紀

市長賞

林 都美子

教育委員会賞

安藤 正一

第70回記念特別賞

宮崎 久仁子

美術展賞

小幡 哲資

櫻井 悦子

林 孝弘

安藤 雅彦

岩田 重和

中村 薫

寺澤 英治

佐野 ルミ子

中村 妙子

奥村 俊雄

日比 憲宏

脇田 和彦

文化情報



「花のように(白菜と葉ボタン)」 岡崎美穂

《市および市内公共施設の催し》

一宮市博物館

〒463215

企画展「暮らしの中の民具」

「いちのみやの民俗」

日時 1月5日(土)～2月24日(日)

午前9時30分～午後5時

(入館は午後4時30分まで、月曜休館、月曜日が休日の場合は翌日休館。)

内容 木曾川が形成した沖積平野に位置し、特徴的な歴史と文化を育んできた一宮市の地域性の特徴を、民俗を切り口として紹介します。

観覧料 一般 200円

※市内小中生・65歳以上無料

高大生 100円
小中生 50円

「民俗芸能公演」

日時 2月24日(日)

午後1時30分～3時

内容 一宮市指定無形文化財の「民俗芸能」の公演。

定員 先着100名※要常設観覧料

三岸節子記念美術館

〒632892

美術実技講座「ピルタ・ナウハ

北欧デザインのひもを織る」

日時 1月12日(土)・13日(日)

午前10時～午後4時

講師 才オヤマ・エリナ・マルケツタ(愛知教育大学准教授)

内容 初心者を対象にした美術の講義と実技指導。様々な素材を使い、表現する楽しさを体験していただきます。

会場 美術館2階実習展示室

参加費 3,000円

対象 15歳以上の方(中学生を除く)

定員 16名

※要参加費・要申込み(詳しくはお問い合わせ下さい。)

常設展「三岸節子

アトリエと静物画」

日時 1月16日(水)～4月7日(日)

午前9時～午後5時

内容 身近なものをモチーフに創造力豊かに展開された美しい静物画の世界を、アトリエの様子とあわせ、お楽しみいただけます。

観覧料 一般 320円

高大生 210円

小中生 110円

※市内小中生・65歳以上無料

企画展「現代作家シリーズ

津上みゆき」

日時 2月2日(土)～24日(日)

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで、月曜休館、月曜日が休日の場合は翌日休館。以下同じ)

内容 「View」と名付けた風景画を描き続けた津上みゆきの、日々のスケッチや新作により、新たな「View」の世界を展覧します。

観覧料 一般 500円

高大生 200円

小中生 100円

※市内小中生・65歳以上無料

「現代作家シリーズ

津上みゆき」関連事業

講演会&アーティストーク

日時 2月2日(土)

午後2時～3時30分

内容 展覧会にあわせ講師の先生をお招きし、津上みゆき展の画業をひもときます。

講師 ロジャー・パルバース(作家・東京工業大学世界文明センター長)

会場 美術館1階講義室

定員 先着100名※聴講無料

美術館講座「美術の学校6」

日時 3月2日(土)・3月9日(土)

3月16日(土)

午後2時～3時30分

内容 ●美術講座入門としてより楽しんでいただくため、様々な視点から楽しく、わかりやすい講演会を開催します。

会場 ●美術館1階講義室

定員 ●各100名 ※授業料無料

尾西歴史民俗資料館

☎(62)9711

特別展「博覧会と尾西織物」

日時 ●1月26日(土)～3月17日(日)

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで、月曜休館、月曜日が休日の場合は翌日休館)

内容 ●全国の織物と内国勲業博覧会などに出品された尾西織物を博覧会関係の資料から比較して紹介します。

観覧料 ●無料

「博覧会と尾西織物」関連事業 展示説明会

日時 ●1月27日(日)・2月17日(日)

3月10日(日)

午後1時30分～3時

定員 ●48名 ※参加無料(当日、研修室にお集まりください。)

講座「街道の歴史

～中山道(馬籠宿)～

日時 ●①2月24日(日)

午後1時30分～3時

②3月3日(日)

午前9時～午後4時30分

内容 ●江戸時代の中山道と馬籠宿について、歴史と現在の様子を講義と現地実習で学びます。

①講義

②バス現地実習(約3km歩きます)

定員 ●36名(①のみは48名)

※要参加費・要申込み(詳しくはお問い合わせ下さい。)

「第15回懐かしの

SPLRECORDコンサート

日時 ●3月20日(祝)

午後1時30分～3時30分

内容 ●蓄音機で聴くSPLRECORDの名曲を鑑賞

入場料 ●無料

一宮市民会館

☎(71)2021

「石川さゆり40周年記念コンサート」

日時 ●3月3日(日)

①午後1時～②午後5時

(開場は30分前)

入場料 ●SS席 7,500円

一般席 6,500円

※全席指定・未就学児入場不可、以下同じ

「八神純子コンサートツアー2013」

日時 ●3月20日(祝)

午後3時30分

(開場は30分前)

入場料 ●5,000円

「仲道郁代ピアノリサイタル」

日時 ●3月31日(日)

午後2時

(開場は30分前)

入場料 ●3,500円

一宮市尾西市民会館

☎(62)8222

「六代目三遊亭円楽 独演会」

日時 ●1月25日(金)

午後6時(開場は30分前)

入場料 ●3,000円

※全席指定・未就学児入場不可、以下同じ

「秋川雅史コンサートツアー

～あすへの挑戦～

日時 ●2月9日(土)

午後3時(開場は30分前)

入場料 ●5,000円

青年の家

☎(73)2400

「ヤングフェスティバル」

日時 ●3月10日(日)

午前10時～午後3時

内容 ●青年グループ活動の発表会で、一般の方も自由にご覧いただけます。ご家族連れでもどうぞ。餅等の振る舞いもあります。

参加料 ●無料(内容により有料)

市経済振興課

☎(28)9130

「新春トップ講演会

～これからの時代の経営とリーダーシップ～

日時 ●1月26日(土)

午後1時30分～3時

(開場は30分前)

講師 ●佐々木常夫(株式会社東レ)

経営研究所特別顧問)

会場 一宮市民会館ホール

入場料 無料(要整理券)

※整理券は1月4日(金)より一宮庁舎西玄関受付、尾西庁舎西館1階受付、木曾川庁舎総務管理課、各出張所、一宮市民会館、経済振興課で配布



『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(77) 4536

日時 12月23日(日)・1月27日(日)

2月24日(日)・3月24日(日)

午後1時～

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 自由吟および課題吟を一宮川柳社委員が指導します。

午後1時～

(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(51) 2286

日時 1月12日(土)・2月9日(土)

3月9日(土) 午後1時～

会場 葉栗公民館

内容 各自10句持参、互選により優秀作を記録に残します。(初心者歓迎)

参加料 無料

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(62) 4654

日時 1月13日(日)・2月10日(日)

3月10日(日) 午後1時～

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 真清短歌会委員により実作指導します。(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

『新年短歌会』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(62) 4654

日時 1月27日(日) 午後1時～

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 どなたでも(大会に先立ち詠歌を提出)

参加料 500円

申込み 当日直接会場

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73) 5504

日時 1月27日(日)・2月24日(日)・

3月24日(日) 午後1時～

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 当季雑詠3句を一宮市民俳句教室委員が指導します。(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

『平成24年度支部講演会』

【問合せ先 (公)中部日本書道会 一宮支部】

☎(73) 9503

日時 1月27日(日)

午後4時～5時30分

会場 一宮スポーツ文化センター

講師 元一宮市博物館・三岸節子 記念美術館学芸員 毛受英彦先生

演題 森春濤とゆかりの人々

入場料 無料(一般聴講歓迎)

『第8回吟剣詩舞道大会』

【問合せ先 剣詩舞道柳翠会】

☎(62) 4776

日時 3月10日(日) 午前10時～

(開場は30分前)

会場 尾西グリーンプラザ

内容 県内外の吟剣詩舞の団体が集まり、日頃の成果を発表します。

入場料 無料

『楽しく描こう会 設立10周年記念水彩展』

【問合せ先 楽しく描こう会】

☎(62) 7647

日時 3月12日(火)～17日(日)

午前9時～午後5時(12日は午後1時から、17日は午後4時まで)

会場 三岸節子記念美術館

内容 会の設立10周年の記念に会員が自画像を含め、一人4点の力作を出品します。

入場料 無料



『いちのみや文芸』 第41集を刊行しました

10月20日(土)に「いちのみや文芸第41集」を発行しました。随想・随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、川柳、狂俳の7部門あわせて330名の方から寄せられた2529作品を掲載しています。

1冊800円で一宮市役所木曾川庁舎（一宮市教育委員会生涯学習課）にて販売しています。貴方も是非、お読みください。



『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。掲載を希望される団体は、発行月3・6・9・12月の前々月15日までに、下記の必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項 ①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時
⑤会場 ⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他
必要事項

提出先 〒493-8511 一宮市芸術文化協会事務局
(住所不要)
またはFAX 0586-86-1809

愛知県文化協会連合会の催し(報告)

第37回 愛知県文連美術展

9月25日(火)～30日(日)、愛知県美術館8階ギャラリーを会場に第37回愛知県文連美術展が開催されました。県下より、373作品が入賞・入選に輝きました。



▲会場風景

本協会からも(日本画の部)今枝昭さん、今枝由恵さん、尾池純子さん、(洋画の部)長谷川千代子さん、山田徹さん、米津美代子さんが入選され、日本画の部で瀧廣美さんが奨励賞に選ばれました。



▲会場風景

愛知県民茶会(尾張部)

10月21日(日)、新城市文化会館・新城市民体育館において、愛知県民茶会が行われました。会場には大変多くの方が来場され、心温まる一杯の茶を存分に味わっていかれました。



文化講演会

数学者 秋山 仁さん

『宮沢賢治から学ぶ21世紀の教育』

10月20日(土)、一宮市尾西市民会館にて、文化講演会が開催されました。

作家活動やテレビなどで活躍中の秋山仁さんをお招きし、「宮沢賢治から学ぶ21世紀の教育」と題してご講演いただきました。

【講演要旨】

今も昔も、自分の人生を子供達が自分の意志と努力によって作り上げていくよう教育していくことに長けた達人が、日本だけではなく世界中にたくさん

いらっしゃいます。今日はその中の一人、宮沢賢治先生を紹介します。

宮沢賢治先生は体験的な教育ということ、生徒が自ら何かを体験する教育を常に行っていました。物作りや実験、栽培などを生徒に行わせたり、本を読ませるだけではなく、それを戯曲化して演じさせたり、クラスを賛成派と反対派に分けてディスカッションやディベートなども行わせたりしました。

このように「賢治先生は全ての授業を、子供達が主役という考えで教育をしてきました



を解かせるという教育では

理を暗記させて問題を

学もただ公式や定

数

方はおっしゃ

授業を受けた

れません。」と

たので、何十年たっ

ても簡単には忘

れません。」と

授業を受けた

方はおっしゃ

っています。数

学もただ公式や定

数を暗記させて問題を

学もただ公式や定

数を暗記させて問題を

学もただ公式や定

数を暗記させて問題を

学もただ公式や定

数を暗記させて問題を

学もただ公式や定

数を暗記させて問題を

学もただ公式や定

数を暗記させて問題を

学もただ公式や定

数を暗記させて問題を

学もただ公式や定

数を暗記させて問題を

学もただ公式や定

数を暗記させて問題を

学もただ公式や定

数を暗記させて問題を

なく、じっくり考えさせて、時には友達同士で各々の考え方を披露しあって、試行錯誤して結論を導くというものでした。今日はこういう机を作ってみよう。ウサギ小屋を作ってみよう。」というテーマで必要な知識を生徒が自ら辞書で調べたり、人に聞いたりする体験的な教育を賢治先生は一生行っていました。

「頭で覚え、いつも体で覚えなさい。すると知識に感動できるから。詰め込みは何も理解できない。みんなはただ授業で感動すればよい。大事な事は体にしみこむまで私が何度も教えるから。」賢治先生はいつも生徒にこう言っていました。

賢治先生の授業を受けた生徒は本当に良い経験をした。それは本当に良い経験をした。そして、学校の授業で感動する。という減多に経験できないことに出会えたのですから。他にも賢治先生が執筆された『銀河鉄道の夜』を、紙芝居にして読んでくれたり、『雨ニモマケズ風ニモマケズ』という詩についても教えてくれたり、五感をフルに総動員して感動を感じる授業を全力で行っていたただけのだから、生徒は全力で頑張った。勉強に励んでいた。今、この時代の授業もこういう方向に変えていかなければならないのです。

三角関数や微分、積分、因数分解、他にも色々な連立方程式も習いました。仮定法過去完了も、どこかの帝国が突然崩壊した話も、電流の法則や月の満ち欠けも全部習いました。しかし、全部忘れてしまいました。これが今の教育だと思えます。こんな教育よりも子供達の資質を生かして、いろんなアイデアが次々と湧き出してくるような発想の泉を、子供達の頭に掘り起こすことが教育の目的でなければなりません。

ぜひ子供達には、努力によって困難を克服できることを体験させてください。幸せな体験をたくさんさせてください。生きていくことは楽しいという体験をたくさんさせてください。すると、世のため、人のため、地域のために尽くそうと考える子供達に育ってくれます。

[題字] 武山翠屋
[編集・発行] 一宮市芸術文化協会

[連絡先] 一宮市芸術文化協会事務局 (市教育委員会生涯学習課内)
〒493-8511 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り27番地
TEL 0586-84-0013 / FAX 0586-86-1809